

広島神楽

定期公演 へようこそ

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。
当公演では、全てのお客様に気持ちよく神楽を鑑賞していただくため、下記のルールを設けています。
ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

- (1) 座席での**飲食は出来ません**。ロビーをご利用下さい。
- (2) 上演中の立ち歩きや大声での私語など**他のお客様のご迷惑になる行為**はご遠慮下さい。
- (3) お子様連れの方は、お子様が舞台の前に出られると、演出等で**危険な場合**がございます。**着席**での鑑賞をお願いします。
- (4) 撮影について
→写真撮影は右図の**撮影エリア**で行って下さい。
※**ビデオカメラでの動画撮影、フラッシュの使用は禁止**します。
(マスコミ関係など主催者の許可を得ている場合を除く)

以上です。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

撮影エリアについてのご案内

写真撮影をご希望の方は必ず、下記の撮影エリアをお願いいたします。

撮影エリア

フラッシュを使用する撮影、三脚を使用する撮影、撮影された画像の営利目的での複製および以上の動画公開は禁止させていただきます

スマホや携帯で撮った動画や写真をSNSにどんどんアップして

広島神楽の魅力を発信してください!!

11月6日のタイムスケジュール
出演: 才乙旭神楽団(北広島町)
19:00～開演
19:05～第一幕『天神』
(およそ40分)
～幕間(休憩)～
20:00～第二幕『鐘馗』
(およそ40分)
20:45～記念撮影会

衣装やお面を実際に見ていただき、記念撮影をしていただけます。携帯電話での撮影も大歓迎です。本日の記念に是非ご参加下さい。また、神楽団との交流もしていただけます。疑問に思ったことなど、直接団員にお聞きください。(舞台へは靴を脱いでお上がりください。)

※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

さいおとあさひかぐらだん

才乙旭神楽団プロフィール ～北広島町～

才乙大歳神社の神祭を中心に活動している、10名たらずの神楽団です。
先輩方々の伝統を受け継ぎ、日々練習に励んでおります。
これからも地域の皆さんに喜んで頂けるよう活動してまいりたいと思っております。

第一幕『天神』 てんじん

平安時代、宇多・醍醐(だいご)天皇の代に菅原道真(みちざね)はその文才を認められ、右大臣まで上り詰め、世にも稀な出世をします。これを妬んだ左大臣・藤原時平(ときひら)は謀(はかりごと)をめぐらし、道真を落とし入れます。九州・太宰府に左遷された道真は無実を訴えますが許されず、その地で無念の死を迎えます。すると、都では天変地異が続き、大きな雷鳴がとどろいたと言います。道真は雷神となり、鬼となり果てた時平を討つという物語です。

その後、道真は北野神社に祀られ、学問の神さまとして広く親しまれ、各地に天神さんの分社が設けられました。

こうした道真の話が、謡曲「雷電」や神楽「天神」となったと言われています。

大	太鼓	—	向田	拓夫
小	太鼓	—	向田	英章
手	打鉦	—	三田	玲司
	笛	—	四郎田	桂一
菅原道真	—	藤沢	竜緑	
随身	—	藤沢	健次	
藤原時平	—	西川	健吾	

第二幕『鐘馗』 しょうき

「鐘馗」は中国や日本に伝わる魔除けの神様です。
備後風土記には、みすばらしい姿の武塔神(むとうしん)が一夜の宿を頼み、貧しいながらも温かくもてなした家族に「茅の輪(ちのわ)」を腰に巻くよう言い残し、村中に疫病が流行った際にその家族は助かったという伝説があります。

神楽の演目「鐘馗」はこの伝説などから創作された物語で、須佐之男命(すさのおのみこと)の化身が鐘馗大神と名乗り、民の命を奪おうとする大疫神(だいえきしん=疫病の神)と戦います。

姿なき大疫神を左手に持つ茅の輪で捕らえ、右手の剣で見事退治します。

大	太鼓	—	向田	英章
小	太鼓	—	藤澤	健次
手	打鉦	—	岡杖	佳世
	笛	—	藤沢	竜緑
鐘馗大神	—	四郎田	桂一	
大疫神	—	向田	拓夫	

※出演者は予告無く変更になる場合がございます。
※助成/一般社団法人地域創造